

協働による環境学習推進事業

1. 事業の概要

ごみ処理や景観などの身近な問題から地球規模の環境問題に至るまで、幅広く複雑多岐にわたる環境問題の解決には、県民一人ひとりの参加と多様な主体の協働による取組を地域において進めることが大切です。そのため、県では、地域のNPO等環境団体との意見交換や効果的な環境学習の企画提案の場として平成20年に設置した「岡山県環境学習協働推進広場」を基盤に、広場の登録講師を派遣して行う環境学習出前講座など、関係団体と行政との協働による環境学習を推進しています。

2. 平成26年度実績

- ・環境学習出前講座の実施 301回（温暖化40件、エネルギー73件、自然85件、ごみ52件、持続可能な社会7件、その他44件）
- ・環境学習指導者の研修実施 8回（5/25, 28, 31, 6/4, 14, 21, 22, 1/24）
登録指導者 99名（H26年度末）



<エネルギー講座>

担当部署

環境文化部 環境企画課 新エネルギー・温暖化対策室

環境学習エコツアー事業

1 事業の概要

環境問題に対する正しい理解と環境意識の高揚を図るため、小中学生や地域団体等を対象に、環境関係施設を見学、体験する「環境学習エコツアー」を実施しています。

2 平成26年度実績

参加者 3,964 人（団体向け3,845人、個人向け119人）



〈こども自然&リサイクル体験コース〉
ヒノキの間伐見学・皮むき体験



〈 児島湖・海コース 〉
生物採取

担当部署

環境文化部 環境企画課 新エネルギー・温暖化対策室

アースキーパーメンバーシップ推進事業

1 事業の概要

地球温暖化を防ぐため、地球に優しい生活に取り組む人たちを、地球（アース）を守る人（キーパー）として会員登録する制度で、会員がそれぞれの目標に取り組んだ1年間の取組結果（CO₂削減量）を計算し、お知らせします。

2 平成26年度実績

会員数 11,214（県民版10,662、事業所版552）

会員ナンバー： 00000000
〒700-0907
岡山市北区下石井2丁目2-10
地球太郎様

EARTHKEEPER
CO₂
見える化プロジェクト
MEMBERSHIP

[あなたの年間削減量は?]

地球太郎さんは1年間で
合計 **200kg** のCO₂を削減！
この数字を、杉の木が1年間に吸収するCO₂で置き換えると、
杉の木 **×14本** に相当します。

ちなみに、日本の一般家庭(2.5人世帯)から出る
1年間のCO₂を吸収するには
▲杉の木約382本が必要です。▲
さて、今回、あなたの取り組みはいかがでしたか？
地球温暖化防止のためにも一人一人の取り組みを継続しましょう。

地球太郎さんの1年間の取組

🍷 大変よくできました	テレビのつけっぱなしを止めます。(約10kg/年削減)
😊 まあまあできました	電気が同じ明るさでたくさんとし、LED照明と照明の利用を減らします。(約29kg/年削減)
😊 持ちませんでした	洗濯ローの保温をやめます(約26kg/年削減)

Thank you!

担当部署

環境文化部 環境企画課 新エネルギー・温暖化対策室

地球温暖化防止活動推進員支援事業

1. 事業の概要

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、県では、地球温暖化に関する現状・知識の普及、対策の推進を図るため平成14年から「地球温暖化防止活動推進員」を委嘱しています。

現在、県下で活動している推進員は76名で、地球温暖化防止や環境保全、ゴミ・リサイクルなどの分野について、それぞれの地域や学校での講師活動や啓発イベントの手伝い、その他の普及啓発活動等にボランティアとして取り組んでおり、県では推進員研修会の実施等によりその活動を支援しています。

2. 平成26年度実績

- ・ 推進員研修の実施 3回 (8/11, 11/11, 3/14)
- ・ 啓発関係資材等の整備 (うちわ・パンフ作成)



<推進員研修会>

担当部署

環境文化部 環境企画課 新エネルギー・温暖化対策室

児島湖ヨシの刈取り・リサイクル事業

1. 事業の概要

ヨシ群落は、児島湖の水鳥・魚類の繁殖の場として重要な役割を担っており、このヨシ群落を良好な状態に保つためには、枯死茎の刈取りによる株の再生を行うことが必要とされています。また、湖水に含まれる窒素やリンを吸収して成長するヨシを冬季に刈り取り、湖外へ持ち出すことが児島湖の水質保全に役立ちます。

そこで、ヨシの刈取り及びごみの清掃を行うとともに、刈り取ったヨシを廃棄物として処分するのではなく、リサイクルし、有効に活用しました。また、県内の児童・生徒がそれらの一部を体験する機会を設けました。

2. 平成26年度実績

(1) ヨシの刈取り及びごみの回収

平成26年度は、総面積31,890m²、総重量34,300kgのヨシを刈り取りました。また、ヨシの刈取りとともにごみの回収作業を行い、ビン類や缶類などの不燃物約260kgを回収し、民間処理施設で処理しました。

《ヨシの刈取り（岡山市南区北七区）》



《回収した不燃ゴミ》



(2) ヨシを活用したリサイクル品

刈り取ったヨシを「バイオマス資源」としてリサイクルすることで、廃棄物を使用した製品開発や再生資材の利用を促進し、広くその利活用方途の普及を図りました。

その再生利用の一環として、マルチング材（土表面に敷き詰め、土の乾燥や雑草の繁殖を防ぐ資材）や堆肥として利用しました。また、児島湖ヨシのPRとなるよう、刈り取ったヨシを材料に児島湖の環境保全を啓発するためのパンフレットの用紙を作成しました。

他にも、茅葺き屋根の材料として利用されています。その内訳は以下のとおりです。

【利用方法】

マルチング材	23,500kg
千両ナス栽培（堆肥等）	3,400kg
パンフレット用紙	1,500kg
茅葺き屋根	5,900kg
計	34,300kg

《マルチング材として利用》



《千両ナスの堆肥として利用》



(3) ヨシの刈取り体験・工作体験

児島湖に親しんでもらうとともに、環境保全意識の啓発を図るために、高校生を対象にヨシの刈取り体験を実施し、小学生を対象にヨシを利用した工作体験を実施しました。

ア ヨシ刈り体験

岡山県立津山工業高等学校工業化学科の1年生40名にヨシの刈取りを体験していただきました。

《ヨシ刈り体験を行う津山工業高校の皆さん》



イ 工作体験

刈り取ったヨシを利用して、ヨシ笛や額などの工作に取り組んでもらいました。玉野市立八浜小学校では4年生児童25名、真庭市立川東小学校では4年生児童23名、岡山市立七区小学校では3年生児童24名、玉野市立大崎小学校では4年生児童22名にヨシの工作体験に参加していただきました。

《ヨシの工作を行う
八浜小学校の皆さん》



《ヨシを使ったペン立てや
額等》



担当部署

環境文化部 環境管理課 水環境湖沼保全班

ごみゼロ社会推進事業（プロジェクト推進会議）

1 事業の概要

県内の廃棄物の発生抑制、再使用及び再利用を県民総ぐるみで推進するために設置した岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議により、各種計画の策定及び施策の企画立案等を行う。

2 平成26年度実績

平成26年4月21日 委員13名が出席し、第1回会議を開催した。

議題：Ⅰ 平成25年度の取組実績について

- 1 会議の開催
- 2 重点取組事業
 - (1) おかやま・もったいない運動の推進
 - (2) マイバッグ運動の推進・レジ袋削減事業の実施
- 3 その他普及啓発活動

Ⅱ 平成26年度の取組（案）について

- 1 会議の開催
- 2 重点取組事業
 - (1) おかやま・もったいない運動の推進
 - (2) マイバッグ運動の推進・レジ袋削減事業の実施
- 3 その他普及啓発活動



3 担当部署

環境文化部 循環型社会推進課 資源循環推進班

ごみゼロ社会推進事業（岡山県エコ製品の認定・PR）

1. 事業の概要

岡山県循環型社会形成推進条例第23条に基づき、平成14年10月に策定した「岡山県再生品の使用促進に関する指針」の周知徹底を図るとともに、条例に基づき創設した岡山県エコ製品認定制度の適正な運用を図ることにより、再生品の需要を喚起し、資源の循環的な利用を促進します。

2. 平成26年度実績

○岡山県エコ製品の認定等

グリーン購入対策会議を年2回（8月、2月）開催し、岡山県エコ製品の認定や品目の追加を行っています。

認定件数 374件 平成27年3月31日時点

○岡山県エコ製品等再生品の普及

巡回エコ製品等普及展示会等のイベントの開催、県の環境イベントでのPR、岡山県のホームページへの掲載、広報誌によるPR、認定製品リストの作成・配布等により、再生品のPRに努めるとともに、岡山県エコ製品をはじめとする再生品の使用を県民、事業者及び市町村へ働きかけます。

① 環境イベント等での展示会

- ・6月7日 暮らしき環境フェスティバル
- ・6月8日 親子エコフェスタ2014・環境フェスタ in せとうち
- ・10月5日 リサイクルフェア in 暮らしき 2014・もったいないフォーラム in 真庭
- ・10月19日 くるりんクルクル～省資源・省エネルギー展～
- ・10月25日 環境フェア in たかはし2014
- ・11月7～8日 未来へつなごう！おかやまESDふれあい広場
- ・11月28日 中四国環境ビジネスネット B-net フォーラム2014
- ・常設展示（テクノサポート岡山）

② 新聞紙面への掲載（10月）

③ エコ製品リストの作成



エコ製品リスト



認定マーク

担当部署 環境文化部 循環型社会推進課 資源循環推進班

循環資源情報提供システム整備事業

1. 事業の概要

岡山県循環資源総合情報支援センターは、廃棄物の適正処理に関する情報や循環型社会形成のために必要なリサイクルや適正処理などに関する情報を提供する、県の指定を受けた公益財団法人岡山県環境保全事業団が提供するサイトです。

2. 情報提供の内容

○産業廃棄物処理業者等に関する情報

岡山県、岡山市、倉敷市が許可した産業廃棄物処理業者を検索することができます。また、岡山県、岡山市、倉敷市が産業廃棄物収集運搬業者及び産業廃棄物処分業者（特別管理を含む。）に対して行った行政処分等について公表しています。

○循環資源マッチング制度

事業活動に伴って排出される廃棄物を他の事業者にも利用してもらうようマッチングを行うことで、循環資源を有効に活用し、循環型社会の形成を推進します。

3. 平成26年度マッチング実績

「譲ります」情報	257件	「利用します」情報	152件
マッチング申込み件数	26件	マッチング成立件数	2件



岡山県循環資源総合情報支援センターHP

産業廃棄物処理業者：検索画面

【関連ページ】岡山県循環資源総合情報支援センター

<http://junkan.pref.okayama.jp/junkan/home/Home!Index.do>

担当部署

環境文化部 循環型社会推進課 資源循環推進班

おかやま・もったいない運動推進事業

1 事業の概要

「もったいない」をキーワードとして、循環型社会の形成に向けた「3R」（発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル））についての県民一人ひとりの意識改革と実践行動を促すため、「おかやま・もったいない運動」を推進する。

2 平成26年度実績

① 「おかやま・もったいない運動」推進フォーラム

- ぐらしき環境フェスティバル

日 時：平成26年6月7日（土） 9時30分～16時
場 所：水島愛あいサロン [倉敷市水島東千鳥町1-50]
内 容：講演会、体験コーナー、展示コーナー、クイズラリー
来場者数：3,000人

- 環境フェスタ in せとうち

日 時：平成26年6月8日（日）10時～14時
場 所：ゆめとぴあ長船 [瀬戸内市長船町土師277番地4]
内 容：手作り体験コーナー、バザー、資源ごみ回収
来場者数：約450人

- もったいないフォーラム in 真庭

日 時：平成26年10月5日（日）10時～16時
場 所：勝山文化センター [真庭市勝山319]
内 容：講演会、事例発表、ワークショップ、展示コーナー等
来場者数：約300人

- ぐるりんクルクル～省資源・省エネルギー展～

日 時：平成26年10月19日（日）9時30分～15時
場 所：道の駅みやま公園 [玉野市田井2丁目4464]
玉野市リサイクルプラザ [玉野市槌ヶ原3072-1]
内 容：もったいない料理セミナー、展示コーナー、体験コーナー、
スタンプラリー 等
来場者数：約3,000人

- 環境フェア in たかはし2014

日 時：平成26年10月25日（土）11時～15時
場 所：高梁総合文化会館 [高梁市原田北町1212]
内 容：体験コーナー、展示コーナー、スタンプラリー 等
来場者数：約600人

<おかやま・もったいない晴れの国フォーラム>



② おかやま・もったいない！小学生ポスター（絵画）コンクールの開催

応募数 75校、744作品

③ おかやま・もったいない！小学生ファミリーエコチャレンジコンテストの開催

応募数 15校、336点

<おかやま・もったいない各種コンテスト展示>



3 担当部署

環境文化部 循環型社会推進課 資源循環推進班

エコライフ推進事業

1 事業の概要

自らのライフスタイルを見直し、家庭ごみの排出抑制（Reduce）を図る契機とするため、買い物にマイバッグを持参し、レジ袋の受取を辞退する普及啓発活動を推進する。

2 平成26年度実績

① 岡山県統一ノーレジ袋デーの取組

- ・毎月10日を「岡山県統一ノーレジ袋デー」と定め、事業者、消費者・環境団体、市町村と協働で、買い物の際に「レジ袋を受け取らないようにする運動」を展開し、レジ袋削減に対する県民意識の向上を図る取組を実施した。

参加店舗数 1, 525店舗（平成27年4月現在）

レジ袋辞退率 26.6%（平成27年2月現在）

- ・事業者への啓発資材の送付、小学4年生へのクリアファイル配布を行った。
- ・新聞・雑誌等への広告掲載や6月及び11月のおかやまマイバッグキャンペーンでの啓発活動を実施するとともに、県及び各市町村発行の広報紙等において広報を行った。
- ・マイバッグ持参率等を把握するため、平成27年2月～3月に、県内10店舗でマイバッグ持参率等アンケート調査を実施した。

ノーレジ袋デーの認知率 56.1%

マイバッグ持参率 46.2%

<街頭啓発>



JR岡山駅前（6月10日）



新見市（11月17日）

② マイバッグ・チャレンジ30の実施

グループでレジ袋削減に取り組み、レジ袋の削減効果を数値で「見える化」し、ごみの減量化、環境保全及び環境にやさしい生活スタイルへの見直しを推進するため、11月の「おかやまマイバッグキャンペーン」の一環として実施した。

参加者数	125グループ918人
総レジ袋辞退回数	9,960回

③ マイバッグチャレンジャー事業の実施

幼稚園児にマイバッグを使った買い物の仕方を学んでもらうとともに、保護者に「マイバッグ持参」の意義を理解してもらうことで、ごみの減量化地球温暖化防止等につながる環境にやさしい暮らし方について、家庭で取り組むきっかけとしてもらうことを目的として実施した。

参加者数	幼稚園児28人及び保護者27人
------	-----------------



3 担当部署

環境文化部 循環型社会推進課 資源循環推進班

里海保全活動支援事業（海面アダプト事業）

1 事業の概要

（1）趣 旨

海面アダプト事業は、海面の利用機会が多い、海洋レジャー関係の団体等が県及び市の支援の元に、ボランティア活動として海面の清掃美化活動を行い、もって瀬戸内海の環境保全を推進することを目的としており、平成15年度から実施しています。

（2）方 法

活動団体と地元市、県の3者で活動に関する合意書の締結を行ったうえで、活動団体が船舶を使用して海面に浮遊しているごみを回収し、地元市の支援のもとに処分します。県は、清掃活動に必要な清掃用具の購入費等について助成しています。

（3）活動団体（2団体）

- ① 岡山県東部地区小型船安全協会（岡山市）
- ② 岡山県西部地区小型船安全協会（倉敷市）

2 平成26年度実績

（1）日 時

- ① 岡山県東部地区小型船安全協会
平成26年7月25日（金）、9月28日（日）
- ② 岡山県西部地区小型船安全協会
平成26年7月25日（金）、9月26日（金）

（2）場 所

- ① 岡山県東部地区小型船安全協会：岡山港周辺海域
- ② 岡山県西部地区小型船安全協会：水島港（玉島地区）周辺海域

（3）内 容

- ① 参加者及び船舶数：延べ61名、18隻
- ② 回収ごみの量：2トン車4台
（流木・草20%、ビニール・発泡スチロール29%、ペットボトル16%、缶・ビン33%、その他2%）



担当部署

農林水産部 水産課 振興班

海底ごみ普及啓発教材等作成事業

1 事業の概要

本県では、平成15年度から、海底ごみ適正処理体制構築事業等により、海底ごみ専用のごみステーションや、沿岸漁業者、沿岸漁業協同組合、地元市と連携して海底ごみの回収・処理の責任分担の明確化、適正処理体制の構築に取り組んできました。

こうした取組の成果もあって、現在では海底ごみステーションが沿岸7市に設置され、その設置された地区では、沿岸漁業者が日常の操業で引き揚げた海底ごみを持ち帰り、分別して海底ごみステーションに搬入すれば、そのごみは、一次保管された後、市で処分できない処理困難物を除き、地元市の協力で地域の処理施設へ搬入、処理されるという体制が整備されています。

しかしながら、未だ海底ごみステーションの設置が一部の地区にとどまっていたり、設置されている地区でも海底ごみの回収・処理活動が沿岸漁業者全員で取り組まれていないといった課題があり、さらなる海底ごみの回収・処理活動の拡充が必要となっています。

今後は、現状での課題を整理し、取組拡大や普及方法について検討していきます。

2 平成26年度実績

海底ごみ普及啓発教材等作成事業では、小中学生向けの環境学習教材として、岡山県における海底ごみの現状等を映像化した番組を制作し、テレビ放送するとともに、啓発DVD（視聴覚教材）を作成し、県内小中学校に配布しました。

※番組の内容はこちらのページをご覧ください。

<http://www.pref.okayama.jp/page/419229.html>

担当部署

農林水産部 水産課 振興班

スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業

1. 事業の概要

廃棄物のリサイクル技術の研究・開発など環境教育を重点的に行う学校をスーパーエンバイロメントハイスクールに指定し、カリキュラムの開発、大学や研究機関との効果的な連携方策等について研究を推進し、課題に気づき、その解決に積極的に取り組むことのできる人材の育成を図るとともに、環境教育に関する教材を開発しています。

2. 研究開発実施校

○岡山工業高等学校（平成22～24年度）

校内や地域から出るコンクリートなどの廃棄物をリサイクルして、再生コンクリートを製造する研究に取り組んでいます。

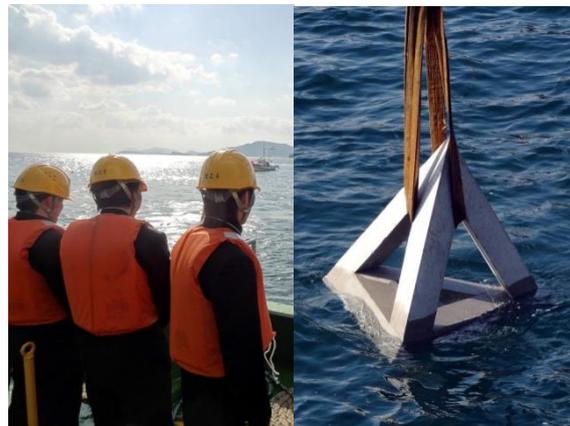
平成24年度は、製造した再生コンクリートを使ったベンチやテーブルなどの製品を、地域の小学校や幼稚園へ寄贈するなど、啓発活動に取り組みました。



○笠岡工業高等学校（平成22～24年度）

岡山県の特産品であるカキの殻を原料として、魚礁ブロックやアマモ養殖板を製造する研究に取り組んでいます。

平成24年度は、大学と連携して製造した魚礁ブロックを、地域の漁業協同組合と連携して笠岡沖に設置しました。さらに、海の現状の調査、アマモ養殖板の実用試験などに取り組んでいます。



○高梁城南高等学校（平成24～26年度）

ヒラタケ等の菌床栽培によって発生する廃オガクズを、ペレットストーブの燃料や、日本の伝統建材である三和土（たたき）や漆喰（しっくい）の材料として再利用する研究に取り組んでいます。

平成26年度は、三和土を用いた床面施工を行い、交流温室を完成させました。この温室を近隣の幼稚園児に開放したり、生産物の販売実習を行ったりすることで教育における循環型社会の推進に取り組んでいます。

担当部署

教育庁 高校教育課 職業指導班

